



No.58 発行日 29.5.15

みどりの風

MIDORI NO KAZE

H.P <http://akaneen.com/>

法人あひるの会 31年目のスタート

社会福祉法人 あひるの会
理事長 岡崎 幸子



新年度 職員会議の様子

昨年は法人創立30周年の年にあたり11月には盛大に記念式典を執り行うことが出来ました。これも一重に多くの関係者の皆様のお力添えの賜物と深く感謝申し上げます。年も改まり、平成29年はあかね園設立30年の節目の年を迎えました。法人の理念である“地域で働き、地域で暮らす”ための支援体制は、年々進化・発展し、内外からの高い評価を得ているところです。こうした支援が10年20年と長く安定し続けられるよう、心も新たに法人31年目のスタートを切りたいと思います。

法人とあかね園の歩みは、社会や制度の変化変革と無縁ではいられませんでした。措置制度から契約の時代になり、自立支援法が施行され、平成24年には障害者総合支援法へと移行、と変遷著しいものでした。こうした厳しい状況下、開園以来、柴田施設長（現常務理事）に舵取りをお願いして、あかね園らしい事業展開で幾多の難局を乗り越えてきました。そして今年「社会福祉法人制度改革」施行の年になります。就任2年目の松尾施設長の手腕に期待を寄せながら、法人理念を土台に、新時代にふさわしい社会福祉法人としての役割を果たしていきたいものと思っています。

この度の制度改革は、「公益性・非営利性を確保する観点から制度を見直し、国民に対する説明責任を果たし、地域社会に貢献する法人の在り方を徹底する」というもので、大きな変革の1つは、評議員会が諮問機関から議決機関へと変わり、法人運営の重要な役割を担うことになる点です。そこで、今回改めて法人あひるの会を支えて下さる理事、評議員の皆様を紹介させていただきます。（別図）。いずれの方々も各分野の専門家・

有識者でいらっしゃいます。これからのあひるの会あかね園のために更なるご尽力のほど、どうぞよろしくお願い致します。

さて、時代の流れは「地域共生社会」の方向へ進んでいるようです。障害者の親と子の高齢化も視野に入れた、社会のニーズに合わせた事業展開が求められています。法人はこれまでも、制度に先駆けて、地域で働き暮らす取り組みを進め、実績を残してきましたが、これは、「友の会」（あひるの会後援会）や保護者の皆様のご理解・ご協力なしでは実現不可能なことでした。今後とも一層のお力添えをお願いする次第です。

理事

- 岡崎幸子 習志野市社会福祉協議会理事
- 国松実枝子 元千葉家庭裁判所調停委員
- 柴田麻子 あひるの会常務理事
- 三橋俊一 社会福祉事務所しゅん代表
- 南部征士 元森永乳業（株）監査役
- 松尾公平 あひるの会あかね園施設長

評議員

- 森下正彦 社会福祉法人実のりの会理事長
- 内海明雄 (株)千葉データセンター社長
- 佐藤淑子 あかね園就労者親の会役員
- 石井由美 社会福祉士・介護センター職員
- 三股金利 社会福祉法人佑啓会ふる里学舎大塚施設長
- 小出幹郎 市川梨香園職員
- 橘川協平 日本コンサルティング（株）
- 中小企業診断士 東京都福祉サービス第三者評価評価者

監事

- 小林操 税理士
- 藤森元 代宿地域支援センター施設長

友の会研修会 「地域で暮らすために vol.10」

～父親、兄妹、姉妹も一緒にこれからを語り合いましょう～

平成29年2月11日(土)にあかね園と法人後援会の「友の会」、そして「保護者会」と「就労者親の会」の共催で研修会が開催されました。

親と子の高齢化や近年の福祉制度の変化に伴い、園の方向性でもある「共生社会」へ向け、これからの暮らし方を共に考える機会として、あえて今回は開催日を祝日に設定し、日頃あかね園と交流のある母親達ではなく、家族(父・兄弟・姉妹)の方々にも積極的に呼びかけをいたしました。

これからも長く、安心して豊かな地域生活を送る為の第一歩として、まずあかね園の事をより知って頂く為の「見学会」とこれからのことを「語り合う会」の2部構成とし、当日は90名を超える方々にご参加いただき、園にとっても家庭にとっても非常に有意義な時間となりました。

当日のスケジュール

10:30 開会

第一部 あかね園大見学会

10:40 あかね園の説明

11:10 あかね園見学開始

12:00 ※茜浜ホールへ移動

12:30 昼食

30年の歩みDVD鑑賞

第二部 これからの暮らしを語り合う

13:15 話題提供(常務・施設長)

13:45 意見交換会

15:15 閉会

参加者内訳

| | 母 | 父 | 兄 | 姉 | 弟 | 妹 | その他 |
|--------|----|----|---|---|---|---|-----|
| 保護者会 | 22 | 17 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 |
| 就労者親の会 | 33 | 6 | 1 | 3 | 2 | 2 | 1 |
| 小計 | 55 | 23 | 4 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 合計 92名 | | | | | | | |

— 第一部 あかね園大見学会 —



当日の受付の様子



自立訓練事業(本場A・Bライン)



就労移行支援事業(別館B室)



あかね園全体説明を施設長から



自立訓練事業(本場Eライン)



3グループに分かれ見学



就労継続B型事業(本場C・Dライン)

— 第二部 これからの暮らしを考える —

冒頭では、柴田常務より30年間の福祉制度の変化、そして施設長より現状と事例をあげての話題提供をして、会が始まりました。



～以下、親・兄弟の思いに対して園からコメントをもらいました（抜粋）～

- (父) 親子の高齢化は父親として切実に考えており、園からの今後の話もありましたが大変頼もしく、嬉しいと思いました。
- (園) あかね園にいるうちに、多様な選択肢を提示しつつ、選択できるような進め方をしていく事と、生活していくための土台をあかね園にいるうちにつくり、準備しておくことが大切と考えます。
- (父) これからは「子供が活着ている間は自分も生きていたい」本日このような場に来て本人や園の事も認識を新たにしました。
- (園) 親が元気であるためにも、本人やまわりの状況を知って先々のことを考えておくことが大切です。“彼らがやれない”のではなく、“やらなくて良い状況に周囲がしてしまっている”ことに気づいてほしい。
- (姉妹) 制度等の知識がありませんでした。姉妹が幸せでいられる為、自分達で学ぶことを大事にしていきたい。
- (園) 親亡き後にサービスが途切れたり、使いにくくならないよう親御さん以外の方にも園を知っておいてもらうことが大切です。
- (姉妹) 自分が高齢化と親の高齢化の両方を考えられるのか心配になりました。他に兄弟がいないので第三者としてあかね園の存在は大きく、深く感じました。
- (園) 兄弟としての気持ちを大事にすること、そして何より自分の人生を大事にすること、親はどの子の人生も大事なのです。それぞれがそれぞれの良い人生を歩んでほしいと思います。親亡き後の手続きをしてくれるのが兄弟の仕事です。

最後に柴田常務からは、彼らには「自分のことは自分でやる、考える」ことを言い続けており家庭でもそうあってほしいとの思いを。松尾施設長からはこのような親・兄弟から多くの声を聞くことが出来、大変嬉しかった。高齢化は直視したくないテーマではあったかと思いますが、状況を知って頂き、また地域に開かれた法人としての使命を果たしていきたいとの声を頂き、閉会となりました。

～研修会を終えて～ アンケートからみなさんの声

- ・家族の思いが聞けて良かった。(母)
- ・集中して働いている弟の様子を見て驚いた。(姉妹)
- ・兄弟姉妹の意見を聞き、改めて親として兄弟たちの人生を考えた。(母)
- ・園の取り組み、現場の様子、福祉の現状について知る良い機会でした。
- ・何かの時に頼れる場があるのは心強い。(兄弟)





「友の会」平成28年度決算報告と29年度事業計画



平成28年度「友の会」の運営は、皆様のご支援、ご協力によりその役割を果たすことが出来ました。お礼申し上げますと共に、ここにご報告致します。「友の会」研修会は、家族が参加しやすい日として2月11日土曜日に行いました。

あかね園の見学と茜浜ホールでの懇談会に、多くの父親・兄弟姉妹が出席され、大変好評を得ました。

28年度法人へは、500万円を寄付致しました。

決算につきましては、4月11日山崎順子、鈴木悦子両氏の監査を受け、適正と認められました。29年度は、「友の会」30周年記念コンサートを開催致します。節目の年にふさわしい華やかな企画として、管弦楽とバレエの競演「バレエとクラシックの奏で」を予定しており、繰越金の一部をコンサート準備金に充てる予定です。

また、恒例となりました研修会の充実も図って参ります。引き続き皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。

| 収入の部 | | 支出の部 | |
|----------------|------------|--------|------------|
| | | | 単位：円 |
| 前年度繰越金 | 4,254,764 | 事務費 | 586,599 |
| 会員会費 | 6,367,000 | 研修費 | 86,485 |
| (個人409名、企業36件) | | コンサート | 225,165 |
| 寄付金等 | 12,000 | 法人への寄付 | 5,000,000 |
| 預金金利 | 70 | 次年度繰越金 | 4,735,585 |
| 合計 | 10,633,834 | 合計 | 10,633,834 |

29年度事業計画

| | |
|-------|----------------|
| 5～6月 | 会員増強月間 |
| 5月 | みどりの風58号発行 |
| 6月16日 | 友の会30周年記念コンサート |
| 12月 | みどりの風59号発行 |
| 2月10日 | 友の会研修会 |

「友の会」へのご入会をお願いいたします。

一般会員（年間一口 3,000円） 法人会員（年間一口 10,000円）

郵便振替 00110-0-354445 銀行振込 千葉興業銀行 津田沼支店 普-4771251

口座名：社会福祉法人 あひるの会友の会 代表 国松実枝子

入会申込み、問合せは事務局まで Tel 047-452-2715 Fax 047-452-2693



園日誌より

支援員 鹿嶋 慶一



平成29年度は、史上最多となる95名の利用者を迎えること、園内で取り組んでいる受注作業の変化、3事業合同で大掛かりに施設外作業を行なう外作業班の発足、そして利用者の方々にとって大きな変化となるのが、長く続いてきたあかね園の日課が変更になるという事かと思えます。

特に私の所属する就労移行支援事業は、登園、降園時間から作業、休憩時間まで大きく変化をします。4月から時間割が変わるという事を伝えた時には、利用者の中には不安げな表情を浮かべる人や、職員にいろいろ確認をしている人も多くいました。

そしてついに迎えた4月3日、新年度始まりの日。送迎車の車種や時間に変更になったことにも動じる人はおらず、冷静に職員の言葉を聞き入れ、時間通りに利用者全員が園に集まりました。

新年度初日のオリエンテーションの中でも、様々な変更点について話に耳をかたむけ、すすんでメ

モを取る姿を見て、利用者の方々から環境の変化についていこうと各々考える力を感じ、こういった力を育てていくことこそが重要なのだと思いました。

29年度の中では行事についても、今までとは違うかたちで行うことになるかと思えます。こういった変化は利用者にとって良い学びの機会でもあり、私達職員も変化を上手に捉えながら良い形で伝え、変化していけるように励んでいきたいと思えます。

編集後記

お陰様で友の会は、30周年を迎えます。今後も、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。(K)

編集人 あひるの会友の会代表 国松実枝子

発行所 社会福祉法人 あひるの会「友の会」

〒275-0024 習志野市茜浜3丁目4番5号